

「第三章 一つの経済」

(課題図書：ピーター・シンガー「グローバリゼーションの倫理学」)

1. 要約

第三章では、私達が今までに学習してきた WTO (世界貿易機関) について述べられている。一般的に WTO は世界の貿易障壁を撤廃する計画を打ち出しており反対するものなどいないと思われていた。しかしグローバリゼーションに対する批判者達が、グローバリゼーションの推進～それも悪い方向への推進～と考えているのだ。

さまざまな非難がなされる中で主に次の4つがあげられる。

WTO は環境、動物の福祉、さらには人類に対する関心よりも経済的配慮を優先させている

WTO は国家主権を侵食している。

WTO は非民主的

WTO は不平等を増大させている。あるいは、(より強い非難として)WTO は、WTO がいない場合よりも富める人びとをさらに富ませ、世界で最も貧しい人びとの状態をさらに悪化させている。

以上のようにして WTO は貿易の自由化をはかる一方で富者から貧者へではなくて、貧者から富者へと富を移動させ、貧富の差をさらに拡大させていると考えられている。さらに経済第一主義で環境や動物のことを考えていないと言われている。グローバルを追求することで各国家の主権までもが侵されかねないと指摘される。

以上の非難に対して WTO の擁護者達は「良心をもたない」といった含みのある言葉を拒絶するだろうが、自分たちが達成しようとしていることに関するこの説明は受け入れるかもしれない。自由貿易が最優先で最重要の目標であることは、WTO の紛争処理パネルの裁定に暗に含まれている。さらに彼らは、グローバルな自由市場は古い観念を一掃することができると思う。その結果、個々人の独創力の活用が制限されなくなるからだ。

2 . 引用

「グローバルゼーションに対する批判者たちが、グローバルゼーションの推進 それも悪い方向への推進 の張本人として名指しする機関が一つあるとすれば、それは世界貿易機関〔WTO〕である。」(p . 6 6)

今日、WTOは広く人々の主権を国民国家からグローバル企業へと移す過程の促進・拡大のための仕組みだと見られているが、その一方で上に示したように、WTOは多くの国から様々な根拠のもとに強烈な非難を浴びせられているのもまた事実なのである。WTOに対する非難には一般的に次の4つの非難がある。

「第一に、WTOは生産物 / 生産過程のルールの使用と第20条の非常に狭い解釈を通じて、生産物の生産方法が惹起する環境保護や動物福祉などの問題への配慮よりも、経済的配慮を優先させている。」(p . 1 1 3)

生産過程を理由に生産物の輸入を禁止できないとすると、純粹に環境を保護するための措置や他の正当な配慮を、偽装された保護主義から区別することがいっそう難しくなるという理由で環境保護政策を認めないとする事は商業的利益を環境保護に優先することになるのである。

「第二に、WTOは形式的な意味では国家主権を侵害しているわけではないが、WTOの活動は実際に国家主権の範囲を狭めている。」(p . 1 1 3)

いったんWTOに加盟すると、自由貿易に依拠する輸出産業が発達し、相当多数の人々が雇用されるため、WTOが運営管理する協定から国家が脱退するならばそれらの産業が崩壊するのではないかという恐れが強まり、実際のところWTOからの脱退は困難な場合が多くなる。また国家として重大な決定をおこなう力が加盟国であるかぎり侵蝕されているという意味においてWTOへの加盟は国家主権を縮小していると言える。

「第三に、WTOは理論においても実践においても非民主的である。」(p . 1 1 3)

その理由は、まず、どのような変更手続きにも全会一致の同意を要請することが民主主義の形態ではないこと、次に、紛争処理パネルと上級委員会は加盟国の大多数に対しても地球の成人人口の大多数に対しても責任を負っていないこと、さらに、WTOは主要な貿易国から特別に多くの影響を受けていることにあるとしている。

「第四に、WTOが富者をより富まし、貧者をより貧しくしている。」「この非難に関して

グローバリゼーションあるいはWTOを有罪とするには、入手可能な証拠は不十分である。」(p . 1 1 4)

不平等について様々な評価方法と結論とがある。筆者は経済のグローバリゼーションが貧者にもたらす全般的影響について、経済のグローバリゼーションによって貧困から逃れた人びとがいると同時に、より深刻な貧困に陥った人々がいるということだろうとしている。だがより適切なデータがないかぎりこのことについて明確な見解には達することができないともしている。

「経済学の用語で厳格に判断すれば、地球環境の保護がない状況では、全体の福祉の最大化は言うまでもなく、自由貿易がパレート効率的な状態となることを期待できる根拠は何もないのである。」(p . 1 1 7) 「非人間的な形態である野放しのグローバル資本主義に対処する方法は、結局のところグローバルな基準の設定である。」(p . 1 1 8)

筆者は経済のグローバリゼーションがよいことだという主張を受け入れようが拒絶しようが、その働きをよくしたり、あるいは、少なくとも悪い箇所を減らしたりする方法があるのかということをお問うことはできるとしている。グローバルな権威の不在という状況においては、どの国にも属さない財の問題は棚上げされ、経済的に効率の悪い状態を招きやすくなり、また支配エリートは、労働者階級や領土内の特定地域の人々に気遣うことがなく、それらの人々にもたらされる大気汚染や水質汚染の損害や、少ない賃金で長時間働かされることによる損害を考慮することはないだろう。その結果として、人間の福祉とグローバルな経済成長の関係はいつそう悪化するだろうとしている。グローバルな自由市場がよく機能するためには環境および労働に関するグローバルな統一基準が必要となってくるのである。

3 . 論点

- . WTOはある「生産物」の「生産過程」が認められていない国に対して「生産過程」を理由にして輸入禁止をすることはできないとしている。つまり「生産物」が同じであればその過程において各国の法律は対抗できないことになる。そういった「生産過程」による「生産物」の輸入禁止は認められないほうがよいと思いますか？
- . WTOは主権を有する政府によって結ばれた一組の協定あるいは条約を管理運営するための枠組みにすぎないとされている。しかし事実上国家はWTOを脱退することができないので国家主権を干渉されることがでてくる。そうなった場合国家干渉は許されるべきですか？
- . WTOにおける決定は一般に全会一致によって決められる。一見民主的なように思われるが、全会一致だとどこか一国が反対を出しただけで通らなくなってしまふ。また富める国と貧しい国とで交渉力に差があるにも関わらず全会一致というのは果たして本当に民主的と呼べると思いますか？
- . WTOによる貿易の自由化によって貧富の差がますます広がっていると考えられている。しかし同時に貧困から免れた人もいる一方でさらに貧困になっていった人もいる。そういった中で貿易の自由化はこれからも進めていくべきだと思いますか？